

キリスト教思想における社会・政治・民族（3）

I 「政治的なもの」とキリスト教

1 キリスト教社会主義と宗教社会主義**(1) 問題——近代の政治思想としての社会主義**

1. 政治神学の成立の可能性やその根拠

キリスト教が人間の救済をその具体性において問題にしようとする場合、公共性あるいは社会的秩序との関係性を無視することはできない。

2. 近代という時代の政治状況：国民国家の形成とグローバル化の進展、啓蒙主義

自由と平等を普遍的理念→アナーキズムや自由主義から社会主義、そして共同体主義に至る、近現代の主要な政治思想が共有する問題圏

3. 社会主義：近代の歴史状況を端的に反映した政治思想である。

源流は近代以前に遡る。社会主義という用語の起源——一七八九年にイタリア語
社会主義の多義性・曖昧さ、近現代の政治思想における特別な位置

(2) キリスト教社会主義とその限界

4. 「社会主義」：近代——欧米諸国による国民国家モデルと世界覇権の形成——以降に登場した広範な諸思想・諸運動を含む理論群に対して用いられる包括概念。

共産主義に限定されない広い意味における社会主義

5. 理論と実践

近代社会における労働法制定の動向の中から。

6. イギリスのキリスト教社会主義運動：1848年、J.ラドロー、F.D.モーリス、C.キングスレーらに指導された社会改良運動。信仰に基づき、隣人愛と神の前の平等というキリスト教的理念の社会的実現を目指す。

職能別組合や消費組合などの各種の相互扶助の組合運動、そして労働者教育（隣保館・セツルメント事業、労働者大学）

7. アメリカの社会的キリスト教。1880年代の神学運動

9. 隅谷（1977、21-22）

- (1) 神の内在性の強調。 (2) 罪人としての人間観の否定。
(3) 隣人に対する自由な奉仕の象徴としてのキリストの十字架の強調。

10. 片山潜らを介して日本におけるキリスト教社会主義

同時期のアメリカの「社会的福音」(social Gospel)

14. チャールズ・E・ガルスト (Charles Ekias Garst, 1853-99年)、1883年来日。

ガルストのとった伝道方針は、「かれら農民に福音を聞かせるためには、まずかれらの貧困の問題をとともに考え、その解決に努力することが必要」(同、114)との認識に基づいた、「すべての神の子たちを、神の食卓につける計画」(同、42)。

16. 租税軽減論と地租増徴論（地主への増税による産業資本家の負担軽減）

ヘンリー・ジョージ(H.George)の土地単税論。

17. 「天は主のもの、地は人への賜物」(詩編一一五編一六節)との聖書の言葉に基づい

て、神によって与えられた土地に対する万人平等の権利を主張し、地主による土地独占を批判するという姿勢である。

18. 「ガルストの単税論及びその運動は、一個の思想的啓蒙運動に終わった」(同、62)
19. キリスト教社会主義の理想主義が有した、社会的進歩への楽観的見方(楽観的な人間理解と歴史理解)と、過度の心情主義。R. ニーバーの言う「愚かな光の子」

(3) ティリッヒと宗教社会主義

21. スイスやドイツにおいてなされたキリスト教と社会主義との積極的な関係づけの試みとしての宗教社会主義。クッター、ラガツ
22. カール・バルト：
宗教社会主義から弁証法神学への転換：新しい世代の神学者において共有。
23. 「ストライキとゼネストと街頭闘争、もし必要ならば、それらはなされねばならない。しかし、それに対する宗教的正当化や栄光化はなされるべきではない！ ……社会民主主義的に、しかし、宗教的・社会的にはなく(*nicht religiös-sozial*)！」(Barth, 1919, 520f.)
24. 批判の論点：宗教社会主義がその正しさを主張する際に、「キリスト教的」「宗教的」と述べる事柄を宗教的神学的に正当化しようとするあり方。
25. 『ローマ書講解』の基本的認識：「神は天にいまし、汝は地上にいる！」(ibid., 294)との神と人間の「無限の質的差異」に基づいている。バルトにおける政教分離原則の徹底化。
26. バルトにおける政教分離原則は、単に国家と教会を原理的に区別するにとどまらず、むしろ、両者の区別が生じるその根源から、いわば逆説的にキリスト者の政治的実践を生み出すものとなったのである。キリスト教の弁証は、特別な弁証神学によって遂行されるのではなく、神学が真に教会的神学に徹するところにおいてこそキリスト教の弁証は有効になされる。
29. 宗教的社会主義批判と宗教批判 → 人間理解の問題
「宗教は不信仰である」、「神の啓示は宗教を止揚する」というバルトにおける「宗教と啓示」との峻別に基づく宗教批判(『ローマ書講解』から『教会教義学』まで)。
↓
バルト以後における宗教社会主義の可能性。バルトの宗教論(宗教批判)の妥当性の吟味。
30. キリスト教社会主義の限界がその楽観的な人間理解にある、宗教社会主義の問題も、同じ人間の問いへと収斂する。
↓
ティリッヒの宗教社会主義論

(4) 展望

キリスト教から見た東アジアの多様性 — 家族・死者儀礼 —

1 はじめに

1. 問題設定

東アジアの宗教文化の共通性：

- ・多層構造（基層／民族／世界）、宗教の基礎単位としての儒教的家族共同体（→キリスト教布教における「儒教の壁」）
- ・キリスト教伝播における共通の伝道圏

では、現時点での多様性はいかに説明できるのか？

東アジアのキリスト教研究の課題と意義

↓

民族主義との関わりでの比較

死者儀礼（葬儀から供養まで）に注目

2. 文献資料の読解・分析とフィールド調査の積極的な統合

京都大学 21 世紀 COE プログラムを利用して

2003 年 11 月 1 日～5 日に釜山で行ったフィールド調査、それに先行して、2003 年 8 月に日本（栃木県小山市・足利市、京都市、奈良市、香川県善通寺市）で同様の調査を実施し、日韓の比較を試みた。

3. 葬儀式時間帯の違い、釜山バプテスト病院に隣接した、病院付属の葬儀施設

韓国：土葬による埋葬式のため

2 韓国キリスト教の紹介

4. 韓国キリスト教の現状（30%、2：1）

韓国政府統計庁「2005 年度人口住宅総調査」（2006/5/25 発表）

総人口：4727 万 8952 人（2005/11/1 現在）

宗教人口：2497 万人（53.1%）

仏教：22.8%

プロテスタント：18.3%

カトリック：10.9%

5. 韓国におけるキリスト教の土着化についての研究者の見解

韓国キリスト教の民族主義的特性

6. 柳東植『韓国のキリスト教』東京大学出版会、1987年。

「王朝が亡びる一九一〇年頃のプロテスタント教会は、芽ばえてやっとな数年という幼いものであった。しかし朝鮮キリスト教の性格は、すでにこの初期に形成されていたと見られる。それはまさに幼児期に形づくられるといわれる人間の性格形成にも似たものであろう。朝鮮人に受け入れられて速やかに成長しつつ民族の激動期を生き抜いたキリスト教は、それなりに土着化して自らの性格を表わしていた。キリスト教はすでに、いわば民族宗教化しつつあったとすることができる。」（柳、一九八七年、五一～五二）

7. 韓国のキリスト教の基本性格（民衆レベルでの土着化）

- ・ハングルの宗教（ハングル聖書というメディア）
- ・復興会（ブフンフェ、熱烈なリバイバル・ミーティングとしての伝道集会的なハングル聖書研究会）の宗教
- ・民族主義の宗教

8. 抗日運動（民族解放運動）と 1980 年代の民主化闘争に積極的に関与し、近代国家韓国の形成に決定的な寄与を行ったことを通して、韓国キリスト教会は、「民族主義的な宗教」（同書、五三頁）という特質を有することとなった。

↓

外来宗教としての分類を超えつつある（?）

9. 南北分断がもたらしたもの

都市化による新しいコミュニティの形成とその基盤としてのキリスト教

cf. 日本における第二次宗教ブーム
都市の中産階層の宗教
創価学会、生長の家など

3 死者儀礼の概要

10. 家の宗教、家（親密圏）から公共性へ

近代の家族の変貌がもたらしたもの

親密圏内部の多元性と対立

↓

この観点から比較するとどうなるか。

11. 韓国における伝統的な儒教式の死者儀礼：納棺式から、葬儀式、出葬式、埋葬式、そして一連の供養までを含む、長期にわたる様々な儀式によって構成。
12. キリスト教式の死者儀礼も形式的には類似した側面を有する。
しかし、その宗教的意味づけについては、大きな相違が見られる。
遺族と死者の二項関係→神を中心とした遺族と死者の三項関係。
13. 納棺式
14. 葬儀式（キリスト教死者儀礼の中心、キリスト教的生の最重要事項の一つ）
神礼拝として葬儀
15. 釜山メソジスト教会(Dongrae Onchun Methodist Church)の葬儀式（日本の場合と基本的に同じ構成）
招詞、黙禱、讃詠、詩編交読、讃美歌、祈禱、聖書朗読、説教、祈禱、挨拶、頌詠、祝禱、出棺。
16. 東アジア（中国、朝鮮半島、そして日本）のキリスト教の共通の問題状況
キリスト教的な死者儀礼観（とくに神礼拝としての葬儀理解）と、伝統的な死者儀礼（とくに祖先崇拝・先祖供養）の慣習との間に様々な緊張・対立が発生する。
17. 信教の自由（宗教的寛容）は、どの程度存在するか。
葬儀が神礼拝であるという原則が、どの程度一般信徒において理解されているかは疑問が残る。

問題は、多元的な親族・家族共同体内部におけるマイノリティの宗教の場合。

遺族の内部や遺族と教会との間 → 生前の意思表示・合意と遺書。

家族という親密圏内部での多元性に伴う

問題は、公共的な解決を必要とする。

家族と公共性

18. 供養・位牌（死者が誰であるかを明記した位牌）

韓国と日本とのかなり大きな相違点。

土葬の場合、埋葬の三日目に墓碑銘を立てるための供養（三墓）を行う。

プロテスタント教会でもこれに相当するおのとして墓前礼拝が重視。

釜山の水宮教会（高麗派）の長老へのインタビュー：

儒教的儀礼との連続性を意識している。

cf. 元旦礼拝と初詣

19. 韓国キリスト教内部における相違

プロテスタント教会とカトリック教会（天主教）

地域的相違（ソウル地域と釜山地域）

4 死者儀礼の急激な変化

20. 韓国の宗教文化を特徴づける死者儀礼の急激な変貌。

土葬から火葬へ。

21. 2003年フィールド調査の段階で、釜山においても火葬率は60%。

韓国社会の変化（環境問題や土地問題）を背景にしている。

22. 巨大な納骨施設を備えた大規模な墓苑の出現。

ロッカー式収納スペースに陶器製の骨壺に遺骨を安置。

23. キリスト教においても、古代より、火葬と土葬をめぐっては多くの論争がなされてきた（水垣渉「キリスト教葬儀の始まり——古代教会の葬儀」、NCC 宗教研究所『出会い』56、2005年、3-17頁）。

24. 死者儀礼の変容＝宗教文化の基盤としての家族共同体の変容（家族とライフスタイルの変容）

「先祖祭祀の変化を研究するためには、先祖祭祀の基盤である家族の変化がとらえられねばならない」（井上治代『墓と家族の変容』岩波書店、2003年、4頁）という視点。

25. 生活の都市化（人口の都市部、とくにソウルとその近郊への一極集中）と少子化。

出生率：1970年頃には、4.53人

2000年、1.47人。2002年、1.17人。2003年、1.19人。2005年、1.08人。

李明博政権下での少子化対策の強力な推進。

↓

土葬・供養を維持することの困難さ。

伝統的な儒教式の供養の簡略化（脱床までの供養の期間を、三年から一年に圧縮するなど）。簡略化に際して、キリスト教式の形態との融合の事例（位牌）。

↓

韓国の宗教伝統にとって、これは危機か？

26. 韓国ソウルにおけるメガ・チャーチのフィールド調査 (2006年)
 芦名定道「東アジアにおける宗教的寛容と公共性」、紀平英作編『グローバル化時代の人文学 対話と寛容の知を求めて 【下】 共生への問い』京都大学学術出版会、2007年、279-301頁。
27. 韓国キリスト教における積極的な対応 (メガ・チャーチの挑戦)。
 教会共同体の中で、人生の全ライフサイクルに応じたプログラムを用意することによって、高齢化に対応する試みがなされている。
 崩壊しつつある親族共同体に代わる新しい家族としての教会形成の動き。
 「神の家族」(エフェソ 2:19)
28. Eph 2:19
ἄρα οὖν οὐκέτι ἐστὲ ξένοι καὶ πάροικοι ἀλλὰ ἐστὲ συμπολίται τῶν ἁγίων καὶ οἰκεῖοι τοῦ θεοῦ,
 (2:19 従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、)
29. 韓国キリスト教における根本的な変化。
 キリスト教的原則と伝統文化との再調節
 公共性の担い手としてのキリスト教 → 政教分離原則の問題

5 むすび

30. 韓国キリスト教会の自己完結的性格 → 宗教間の関係構築に対する消極的態度
31. 2001年2月27日に、長生炭鉱の朝鮮人労務者(日本による炭鉱での強制労働に徴用された136名の朝鮮人を含めた人々が、1942年2月3日の炭鉱事故のため犠牲となった)のために慰霊祭(法然院)。
 韓国カトリック教会の金寿煥枢機卿や韓国キリスト教指導者協会の劉鎬準牧師などのキリスト教関係者が出席し発言(金文吉「現代韓国における宗教的多元性と寛容——仏教とキリスト教の対話」、芦名定道編『多元的世界における宗教と寛容性——東アジアの視点から』晃洋書房、2007年、58-68頁)。
 ↓
 韓国における宗教間の共同供養の試み
 死者儀礼は、民族共同体の問題という側面を有している。
 韓国キリスト教会民族への積極的関与の姿勢は、宗教間の関係性構築に対して新しい道を開くか?
32. 日本の状況、靖国問題
 「新国立追悼施設」をめぐって
 稲垣久和「公共性から新追悼施設を考える」(菅原伸郎編『戦争と追悼——靖国問題への提言』八潮社、2003年)。
 高橋哲哉『靖国問題』ちくま新書、2005年。
 末木文美士『他者／死者／私 哲学と宗教のレッスン』岩波書店、2007年。
33. 韓国の宗教多元的状況におけるキリスト教の動向から

↓

飯田剛史『在日コリアンの宗教と祭り——民族と宗教の社会学』世界思想社、2002年。
中国キリスト教（三自愛国教会と地下教会）と民族主義・国家主義